

2 0 1 2 年 度

事 業 報 告 書

一般財団法人 製品安全協会

## 2012年度の事業報告書

### 1 はじめに

2012年度の世界経済は、欧州の政府債務危機に端を発したユーロ経済圏動揺問題の長期化により、景気回復の道のが長引いた。我が国経済も東日本大震災からの復興途上において尖閣諸島の国有化措置に伴う日中関係の悪化、円高傾向の長期化により厳しい状況に直面してきたが、年末に行われた衆議院総選挙における政権交代を契機に、デフレ経済脱却を目指した大胆な経済政策の転換が行われ、円高の是正、低迷していた株価の回復をはじめとして先行きに対する明るさが見られるようになってきた。

協会の2012年度収支状況は、2010年度、2011年度に引き続いて黒字を計上することができたが、黒字額は対前年度比60%の減と大幅に縮小した。前年度の好決算の反動も一因と考えられる。

当協会の収入の大半を依存しているSGマーク表示手数料収入は、対前年度比7%減となった。前年度需要が伸びた震災復興絡みのプラスチック浴そうふた、住宅用金属製脚立や自転車反動減となった。また、需要構造の変化によるクッキングヒーター用調理器具や乗車用ヘルメットの落ち込みが目立った。

前年度は、SGマーク表示手数料以外の収入多角化の方針の成果が顕著にみられた。2012年度は「消費生活用製品安全法」に基づき特別特定製品に指定されたライター登録検査機関の技術基準適合性検査に係る受託業務(対前年度比43%減)や工場登録維持管理制度に伴う維持・管理料(対前年度比85%減)が前年度に比して減少したことも収入減の一因となった。

一般財団法人として新たにスタートした協会の決算としては、前年度に比較すれば黒字額は60%の減となったものの、手堅い決算になったと言えよう。

## 2 SG マーク基準等作成業務

### 1) 新規 SG 基準の作成

#### ① 乳幼児用揺動シート

乳幼児用品として、業界から SG 基準の作成の要望が出ていたバウンサー等について 2011 年 7 月から専門部会、分科会で検討を行い、2012 年 9 月 1 日から事務受付を開始した。

#### ② キャッチャー用マスク（野球捕手用保護用具）

日本高等学校野球連盟等野球及びソフトボール競技団体並びに関連業界からの SG 基準作成の要望に対応して新しい基準を作成するために、2011 年 7 月から分科会での検討を行っており、2013 年秋の事務受付開始を予定。

### 2) 既存 SG 基準の見直し

#### ① 乳幼児用移動防止さく

最近の使用実態や海外規格の動向等を勘案した基準に改正するため、2011 年 5 月から専門部会、分科会で検討を行い、2012 年 5 月 16 日から事務受付を開始した。

#### ② クッキングヒータ用調理器具

クッキングヒータ用調理器具はセラミックス土鍋に対応する基準改正を行うため、2011 年 6 月から専門部会、分科会で検討を行い、2012 年 10 月 15 日から事務受付を開始した。

#### ③ 自転車用幼児座席

自転車の SG 基準改正の検討を行う中で、新たな自転車の SG 基準との整合性を図るため、後形幼児座席の足載せ部と自転車後輪部との関係について一部見直しを行い、2013 年 2 月 5 日から事務受付を開始した。

#### ④ ショッピングカート

横押し式ショッピングカートを基準に加える SG 基準の改正を行うため、2012 年 3 月から専門部会、分科会での検討を行い、2013 年 4 月 1 日から事務受付を開始。

#### ⑤ 非木製バット

非木製バットにあっては、最先端のカーボン繊維の活用やアルミニウムと FRP のコンポジット等の新規構造の開発などにより、打球の速さに投手や内野手が反応できず、打球を身体に受ける危険があるとして公益財団法人日本ソフトボール協会やソフトボ

ールの競技者からバットの反発性能に関する規定を設けてほしいとの要望があった。2012年12月から専門部会で検討を行い、2013年2月にSG基準を改正した。2013年5月1日から事務受付を開始。

#### ⑥ 自転車

自転車関係 JIS 規格の改正対応や電動アシスト自転車の基準追加及び自転車用幼児座席のSG基準改正に伴う関係項目の整理等を主な内容として2011年8月から専門部会、分科会で検討を行い、SG基準を改正した。2013年度早々の事務受付開始を予定。

#### ⑦ ホイール付き走行ギア（仮称）

現在、シューズ系のスポーツ用具としては、ローラスケート及びインラインスケートの、ボード系スポーツ用具としては、スケートボード及びキックスケートのSG基準が制定されているが、これらのスポーツ用具は、時代や利用者の好みを反映してその形状が著しく変化する特色を持っている。既存のSG基準をもとに、現在の基準の対象となっていない類似のスポーツ用具、さらには新たに市場に登場することが予想される製品まで包含するSG基準を制定するべく、2011年9月から専門部会、分科会で検討を行っており、2013年秋の事務受付開始を予定。

#### ⑧ ライター

PSC対象製品であるライターについては現在SG認証の受付を休止しているところであるが、2012年5月の安全管理委員会での審議を経て7月SG基準の改正を行った。2013年秋の事務受付開始を予定。

#### ⑨ 乳幼児用いす

1981年にSG基準を制定後、やわらかな樹脂製など製品形状や使用法が異なるものも増えてきている。これらの製品に対応するため、2013年3月から専門部会、分科会での検討を開始、2014年春の事務受付開始を予定。

### 3) SG基準品目数の現状

1973年10月のSGマーク制度発足以降、2011年度末までに、136品目のSG基準を作成してきた。2012年度は新規基準として乳幼児用揺動シートを追加、他方対象製品でほとんど活用されていない製品のSG基準の休止（炭酸飲料用ガラス瓶、手動芝刈機、カラビナ、住宅用アルミニウム合金製多関節脚立、屋外用携帯石油バーナ、ローイング機器：計6品目）を進めた結果、2012年度末のSG基準の品目数は、111品目になっている。

#### 4) WTO/TBT 通報

2012年4月6日に「乳幼児用揺動シート」「ライター」、2012年11月5日に「自転車」「自転車用幼児座席」「ショッピングカート」「非木製バット」、2013年3月29日に「乳幼児用ベッド」についてWTO/TBT協定に基づく原案提示の公示を行った。

### 3 SG 基準に基づく安全性の認定及びSGマークの表示交付業務

#### 1) 手数料の改定

SG 基準作成、改正等に伴い、手数料の改定を行った。

- ① SG 基準作成に伴う手数料の改定
  - ・乳幼児用揺動シート
  
- ② SG 基準改正に伴う手数料の改定
  - ・乳幼児用移動防止さく
  - ・ショッピングカート
  
- ③ 業務委託検査機関複数化に伴う手数料の改定
  - ・棒状つえ
  
- ④ 業務委託検査機関変更に伴う手数料の改定
  - ・ビーチパラソル
  - ・学童用かさ

#### 2) SG マーク表示の実績

2012年度のSG マーク表示手数料収入(消費税抜き)は、前年度比7%の減となった。

プラスチック浴そうふた、住宅用金属製脚立、ゆたんぼについては、いずれも前年度東日本大震災の復興等の理由で著しく伸びた品目であるが、需要が一段落したものと考えられる。震災関連以外では乗車用ヘルメットの落ち込みが大きい。当該製品についてはPSC対象でもありSG貼付率は極めて高く、乗車用ヘルメットの需要減少に起因している。またクッキングヒータ用調理器具も昨年引き続き落ち込んでおり、今後基準改定等ニーズを踏まえた対応が必要と考えられる。

一方シルバーカー、棒状つえ、歩行車の福祉用具は収入が伸びている。また自転車等用ヘルメットについては、着用が法令で義務付けられてはいないものの、安全への意識の向上からSGマーク製品の需要が増えているものと考えられる。

近年増加しつつあった自転車については、わずかながら減少に転じた。2012年度、ライターとともに基準改正を行ったところであるが、2013年度なるべく早く事務受付を開

始し、ニーズに応じていく予定。

表示手数料収入上位 15 品目の実績表

	(消費税抜き) 品目名	2012 年度収入		2012 年度枚数	
		(千円)	対前年度比	(千枚)	対前年度比
1	クッキングヒータ用調理器具	32,843	0.86	3,544	0.81
2	自転車等用ヘルメット	32,574	1.04	1,298	1.05
3	プラスチック浴そうふた	27,351	0.80	2,104	0.80
4	家庭用の圧力なべ及び圧力がま	21,682	1.07	2,925	0.95
5	住宅用金属製脚立	20,916	0.90	1,223	0.90
6	乗車用ヘルメット	15,603	0.66	1,300	0.66
7	自転車用空気ポンプ	15,379	0.82	1,818	0.81
8	シルバーカー	13,374	1.11	392	1.23
9	自転車	12,284	0.93	491	0.93
10	手動車いす	11,658	0.83	97	0.83
11	乳母車	11,436	0.99	424	0.99
12	ゴルフクラブ	11,106	0.95	4,150	0.97
13	ゆたんぼ	10,326	0.94	3,442	0.94
14	棒状つえ	8,436	1.12	844	1.12
15	歩行車	5,888	1.63	85	1.72
	上記小計	250,856	0.90	24,137	0.88
	上記以外の品目	67,268	1.06	125,604	0.79
	合計	318,124	0.93	149,741	0.80

### 3) 工場登録・有効型式保有企業数

2013年3月末までの新規工場登録数は、12工場、うち海外7工場（中国が6工場）であった。品目では、乳母車、家庭用の圧力なべ及び圧力がま、乗車用ヘルメット、住宅用金属製脚立、乳幼児用ハイチェア、ゆたんぼ、自転車等用ヘルメット、自転車用空気ポンプ、卓球台であった。

2013年3月末の工場等登録数は706工場で、前年度末より42工場減となった。これは登録事業者に対する登録維持調査の結果を登録工場の最新の実態に反映したことによる。このうち有効型式保有工場数は428工場となり、前年度末より8工場減となった。うち海外の有効型式保有工場数は190工場と、前年度末より3工場減となった。なお、国別では中国の137工場（32%）が最も多く、台湾16工場、ベトナム11工場、韓国6工場、フランス4工場と続いている。

#### 4) 業務委託検査機関

新規 SG 基準の制定や既存の検査機関との業務委託契約の解除に伴い、一般財団法人ボーケン品質評価機構と次の品目について新たに業務委託契約を締結した。

食器棚（2012年4月1日）、乳幼児用揺動シート（2012年9月18日）、ビーチパラソル及び学童用かさ（2013年1月22日）

中国の昆山製品安全試験所と新たに、住宅用金属製脚立、住宅用金属製はしご及び非木製バットについて業務委託契約を締結した。また、同試験所と既に製品検査に関する業務委託契約を締結している、ぶらさがり器具、家庭用自転車エルゴメータ、家庭用トレッドミル、筋力トレーニング機器及びステッパについて、ロット認証、事後調査及び改善指導に関する業務を拡大する契約を締結した。（2013年1月17日）

また、中国の江蘇検閲自転車検測中心とも、既に、製品検査に関する業務委託契約を締結している自転車、自転車用幼児座席及び自転車用空気ポンプについて、昆山製品安全試験所と同様な業務を拡大する契約を締結した。（2013年1月17日）

委託検査機関の複数化については、従来より、進めてきたところであるが、今年度は、次の契約を締結した。

- ・トレッキング用ポール及びウォーキングスポーツ用ポール 一般財団法人ボーケン品質評価機構（2012年4月10日）
- ・棒状つえ 一般財団法人化学研究評価機構（2012年10月17日）

業務委託検査機関との関係・連絡を強化するため、2012年10月17日に12検査機関出席のもと業務委託検査機関連絡会議を開催した。

## 4 SG マーク制度信頼性向上のための検査・調査業務及び関連業務

### 1) SG マーク付き製品の試買検査

試買検査は、市場に出回っている製品については、SG 基準が遵守されているか否かの観点から、SG 基準が改正された製品については、新しい基準に対応しているか否かの観点から実施している。

SG 基準が遵守されているかの観点から、4品目12銘柄（トレッキング用ポール、ゆたんぼ、乗車用ヘルメット、家庭用の圧力なべ及び圧力がま）について実施し、ゆたんぼ1銘柄についてSG 基準不適合があった。

改正SG 基準への対応状況等の観点から、2品目7銘柄（脚立（三脚及び足場台）、三輪車）について実施し、SG 基準不適合はなかった。

事故や情報提供等により2銘柄5品目（手動車いす、油こし器）について実施し、手動車いす1銘柄についてSG 基準の不適合があった。

なお、不適合のあったすべての表示事業者には、後述の改善指導を行った。

## 2) 登録工場等の調査

### ① 事後調査

登録要件が守られているか、また、SG 基準の改正が行われた品目については、新しい基準に対応した管理方法が採られているかの確認のための調査を下記の工場について実施した。

- ・ 非木製バット (1 件)
- ・ とびなわ (1 件)
- ・ ゆたんぼ (3 件)
- ・ 乗車用ヘルメット (1 件)

調査の結果、SG 基準不適合の工場(ゆたんぼ)に対して後述する改善指導を行った。

### ② 登録維持調査

海外の登録工場のうち2008年4月1日以降SG表示実績のない工場(自転車を除く。181工場)に対してSGマークの表示状況及についての調査を行った。期限内(2011年12月末日)に回答のない者については、1年間(2012年12月末日まで)当協会Webサイトで回答の催促を行った。それでも、なお回答がない者については、登録継続の意志がないものとみなすこととした。

ただし、中国連絡所準備室を通じて調査を行った者について特に未回答者が多いため、これらの者については2013年度に追跡確認調査を行うことを検討している。

## 3) 改善指導

試買検査、事後調査や型式試験で不適合になった場合及びSGマーク付製品事故により製品欠陥が指摘された場合には、その事業者に対する改善指導等を行っている。

2012年度は、試買検査及び事後調査でSG基準不適合となった次の事業者に対して改善指導を行った。

- ・ ゆたんぼ (2 件)
- ・ 手動車いす (1 件)

なお、事後調査結果に基づき改善指導を行った中国東莞市のゆたんぼ登録工場について、改善報告期限内に適切な報告がなかったことから業務規程に基づき登録の取り消しを行った。改善指導に起因する登録の取り消しは、制度発足以来最初の事例となった。

## 4) 中国におけるライター適合性検査業務支援

消費生活用製品安全法の特別特定製品に指定されたライターの規制に関し、中国の寧波中盛産品検測会社が外国登録検査機関として登録され、当協会は日本における適合性検査申請窓口としての業務を行っている。2012年度は14件(前年度は31件)の受付を行



った。

#### 5) 海外の登録工場への管理強化対策

海外で生産される SG マーク製品は、増加の一途を辿っている。海外でも、特に生産が多い中国で生産される SG マーク製品の信頼性を確保するため中国連絡所準備室を設置し、中国の製造事業者や検査機関との連携に努めている。2012 年度は中国工場の新規工場登録審査や事後調査への同行及び補助、型式確認対応の補助、中国の業務委託検査機関や登録工場等との連絡、SG 基準の中国語翻訳などで従来にも増して活用を図った。また、中国にあるクッキングヒータ用調理器具の全ての登録工場に対して事後調査を行い、SG マークの表示状況等についての調査を行った。

#### 6) 工場品質管理評価制度の開始

当協会が工場等の要望に基づき製造工場の品質管理の運用状況をチェック・評価等を行う制度の本格運用を 2011 年度から開始した。2012 年度は申請がなかった。

#### 7) 体育用具・施設安全管理士制度への協力・支援

体育用具・施設は、施工や維持・管理・修繕等を適切に行わないと事故を招く可能性が高い。このため日本スポーツ用品協同組合連合会が中心となって、「体育用具・施設安全管理士制度」の創設を進めており、当協会もその協力・支援を行っている。2012 年度は福井で開催された講習会に講師として参加した。

#### 8) バレーボールのネットのテンション測定に係る協力・支援

バレーボール用支柱は、SG マークの認定対象製品であるが、張られたネットのテンションについては、適正な値が決められておらず、試合ごとにまちまちになっているのが現状である。競技者団体である公益財団法人日本バレーボール協会ではネットのテンションの適正な数値設定を計画しており、実際にバレーボールコートでテンションを測定可能な機器の開発に対する協力を要請されている。これまで各種の試験や試作機の改良を行い、2013 年 4 月に関係者に対して最終のプレゼンテーションを予定している。2013 年秋の本格供用開始を予定。

## 5 被害者救済等の業務

### 1) SG マーク制度に基づく被害者救済業務

2012 年度に SG マーク付き製品により発生した人身事故で、事故発生届を受理した事案は、ゆたんぼ、シルバーカーなど 5 品目 7 件であり、このうち賠償措置を講じることとしたものが 3 件、製品起因でないとしたものが 2 件、調査中のものが 2 件である。こ

の間の賠償金支払額は123千円で幼児用鉄棒、ゆたんぼ、携帯用簡易ガスライタの3件だった。

## 2) 消費生活用製品 PL センターの業務

消費生活用製品 PL センターでは、2012 年度は製品の事故・品質等に関する相談等 619 件を受理した。この内 316 件は消費者等から、248 件は行政機関・消費生活センターからの相談問合せだった。

相談内容区分では、PL センターが助言や争点整理を行った「事故相談」・「クレーム相談」がそれぞれ 123 件と 84 件で、この内、PL センターが事業者に照会をし、紛争解決に向けて協力を行った文書照会事案は、事故 3 件、クレーム 2 件だった。

PL センターでは紛争解決手段として当事者からの申し立てに基づき、判定会を設置し調停を行うこととしているが、2012 年度に判定会を設置し、審査を行った事案はなかった。

## 6 情報提供・啓発・広報業務

### 1) SG マーク製品の普及促進のための展示会等への参加

#### ① 第 27 回ベビー&シルバーショー イクフェス 2012

2012 年 9 月 21～22 日開催の第 27 回ベビー&シルバーショー イクフェス 2012 に後援、出展した。

#### ② 第 39 回国際福祉機器展 H.C.R.2012

2012 年 9 月 26～28 日開催の第 39 回国際福祉機器展 H.C.R.2012 に出展した。

#### ③ 中国乳母車及び乳幼児用品展示会(CHINA KIDS EXPO)

2012 年 10 月 11～13 日開催の中国乳母車及び乳幼児用品展示会(CHINA KIDS EXPO)に出展した。

### 2) ベビーカー安全協議会の活動に対する協力

ベビーカーの安全を確保することを目的に、経済産業省等の要望を受けて発足した国内のベビーメーカー約 20 社からなるベビーカー連絡協議会の活動に対して支援・協力を行った。2012 年度は 4 回の会議を開催した。公式輸入マークプロジェクトとして並行輸入商品に関する検討、第 27 回ベビー&シルバーショー開催にあわせて世界のベビーカー展示会の開催と今後の方向についての検討及び JR 東日本ベビーカーキャンペーンポスターの作成・配布活動を行った。

### 3) SG マーク制度、SG マーク付き製品の普及・啓発・広報業務

SG マーク制度の普及を図るため、協会 Web サイトの運営、SG ニュースのメルマガ配信を行うとともに、消費者団体の機関紙等への制度の広告掲載を行った。

また製造・輸入・販売事業者、消費者に SG マーク制度、SG マーク付き製品の認知度を高めるため、TV販売事業者等へのセミナーの開催、対消費者向けのポップや SG 登録工場向けの金属製プレートを作成を行った。

SG 製品の認知度を高めるために新聞・テレビ等からの SG 製品に関する取材に積極的に対応した。また、協会 Web サイトへの関係機関からのリンク要請に応え、製品紹介パンフレット等への「SG マーク」の使用許可の依頼に応じた。

### 4) 消費生活用製品 PLセンター業務の情報提供

PLセンターダイジェスト報（年間4回発行）を、地方自治体、消費者団体、業界団体、損害保険会社等に95通郵送で、220通電子メールで配信した。併せて当協会 Web サイトに掲載した。

## 7 調査・研究業務

政府や各種団体等の委員会に参加し、製品安全対策についての基準作成等に協力するとともに、こうした場を通じて得られる情報を製品安全協会の活動に反映させている。

2012年度は経済産業省、消費者庁、製品評価技術基盤機構等が主催する製品安全に関する委員会に委員として参加し、製品安全対策の推進に協力した。

## 8 製品安全協会の組織に係る業務

### 1) 組織・定員

2012年度末の協会の常勤役員数は2名であり、職員等の総数は15名であった。

### 2) 理事会の開催

#### ① 第93回理事会

2012年6月12日に、協会の会議室において、第93回理事会を開催し、2011年度の事業報告書、2011年度の収支決算書及び財産目録について審議を行い原案通り承認された。また、安全管理委員会委員の追加選任する件についても承認された。

#### ② 第94回理事会

2013年3月15日に、協会の会議室において、第94回理事会を開催し、2013年度の事業計画書、収支予算書について審議を行い原案通り承認された。

### 3) 評議員会

#### ① 第76回評議員会

2012年6月26日に、協会の会議室において、第76回評議員会を開催し、2011年度の事業報告書、2011年度の収支決算書及び財産目録の報告を行った。また、一般財団法人移行に伴う理事及び監事の選任及び常勤理事に対する報酬の支給について承認された。

### 4) 安全管理委員会の開催

#### ① 第80回安全管理委員会

2012年5月31日に、協会の会議室において第80回安全管理委員会を開催し、ライター（改正）のSG基準についての審議及び乳幼児用揺動シートの新規認定対象製品の追加に関する審議を行い原案通り承認された。

#### ② 第81回安全管理委員会

2012年11月22日に、協会の会議室において第81回安全管理委員会を開催し、自転車（改正）、自転車用幼児座席（改正）、ショッピングカート（改正）、非木製バット（改正）のSG基準についての審議及び炭酸飲料用ガラス瓶等6品目のSG基準の休止についての審議を行い原案通り承認された。

### 5) PLセンター運営委員会の開催

#### ① 第40回PLセンター運営委員会

2012年5月14日に協会の会議室において、第40回PLセンター運営委員会を開催し、2011年度の相談等の受付状況、製品事故に係る相談等の処理状況、品質クレームに係る相談等の処理状況、SGマーク製品の事故処理状況等の報告を行った。

#### ② 第41回PLセンター運営委員会

2012年11月19日に協会の会議室において、第41回PLセンター運営委員会を開催し、2012年度上半期の相談等の受付状況、製品事故に係る相談等の処理状況、SGマーク製品の事故処理状況等について報告を行った。

### 6) 新公益法人制度への対応

2012年4月1日に「一般財団法人製品安全協会」へ移行した。これに伴い一般財団法人への移行に係る諸規則等の改正及び新法人としての体制整備を行った。